

令和5年度 東久留米市立 第三小学校

学校評価報告書

学校教育目標	◎ よく考える子	教育ビジョン	【目指す学校像】	・子供たちの笑顔あふれる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 ・職員が組織力を生かして職務を遂行し、活力みなぎる学校
	○ なかよくする子		【目指す児童・生徒像】	・基礎・基本を身に付け、自ら考え、創造力・表現力に富んだ子供 ・すんではいさづかでき、自らを律し、他人と協調し合う心豊かな子供 ・基本的な生活習慣を身に付け、心身共に健康で活気に満ちた子供
	○ 元気のよい子		【目指す教師像】	・学校経営計画実現のために校務分掌組織を活用した活力ある教師集団 ・授業研究を主体とした校内研究の推進による指導力・授業力の向上を図る教師 ・OJT・OFF-JT研修を有効に活用し、課題意識をもって謙虚に自己研鑽に励む教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>・ICT機器を活用した、授業研究を主体とした校内研究の推進による教師の指導力・授業力の向上が図られた。タブレット端末を活用した表現の機会、思考の機会を授業中に組み込むことができるようになってきている。アナログの読む、書く、話すことの充実を図るために、積極的な活用を今後も図っていく。</p> <p>・本校の多くの児童は、「授業がわかる」「授業が楽しい」と感じている。しかし、国や市の学力調査、東京ベーシックドリル診断テストを見ると、学年が進むにつれ平均点が低下し、二極化が広がる傾向にある。それぞれの教科において更なる結果の分析を行い、全教職員が組織として、わかりやすい授業づくりを推進し、全児童の力を伸ばす取組の充実を図っていく。</p> <p>・低位層の底上げはもちろんのこと、中・上位層への働きかけにも配慮し、全児童の力を伸ばす取組の充実を図っていく。</p> <p>4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき</p>			

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和7年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	・児童による人権週間の取組の充実・改善・定着 ・規範意識を身に付けさせる	・人権作文・人権標語などの指導の充実・徹底 ・人権教育に関わる年間指導計画の確実な実施・改善 ・人権に関わる職員研修の実施	・年2回の人権集会の取組 ・人権作文・標語の取組 ・不適切な指導…0件 ・いじめアンケートによるいじめの早期発見と解決	・人権作文6年生全員の取組 ・人権標語5年生全員の取組 ・いじめや不適切な指導による不登校0 ・人権講話からふわふわ言葉への取組	3	3	3.0	△大上段に構えず、身近なものから始めてほしい。 △人権、道徳、いじめ問題の3つの柱は三位一体のもので、どれが欠けても成立しない課題である。この3つの柱を徹底的に指導することで、学校全体の雰囲気改善されると考える。将来、社会に出て一番大切な三原則である。	○服務事故防止研修の中で、不適切な指導防止について必ず取り組もう。 ○東久留米市スタンダード(服務規律編)から学ぶ事で、不適切な指導、服務事故ゼロを目指していく。 ○道徳の授業の中で、個を認め合う気持ちを醸成させる。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	・自尊感情を高め、自他を大切にすることを組織的に行う ・道徳の授業改善に取組む	・特別の教科「道徳」の時間の授業改善と充実 ・道徳授業地区公開講座の充実・意見交換会の工夫	・授業観察における道徳授業 年1回以上	・児童の道徳授業の振り返りノートによる満足度(自己評価と教師による評価)	4	3	3.4	△家庭との連携が必要。若い元気な人が座っていて、老人が吊革につかまっている光景をよく目にする。うわべだけで中まで浸透していない気がする。	○道徳の授業を意図的・計画的に充実させることで、児童の規範意識や他者への思いやりを育む。 ○家庭と連携し、児童の規範意識を高める。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	・学校いじめ防止基本方針を理解し、いじめを未然に防ぎ、適切な人間関係を築く指導を行い、自尊感情を高める	・いじめに関する授業の工夫 ・いじめ対策委員会で検討し、いじめの未然防止策・早期発見を推進 ・SC、SSWの活用 ・ふれあい月間の活用	・いじめを扱った道徳授業年3回 ・連絡会(毎週金)での情報交換 ・学校いじめ対策委員会 月1回	・いじめ解消…100% ・教育相談活動・体制の充実 ・なかよし班等の異学年集団活動・交流の充実(児童アンケート結果)	3	3	2.8	△些細なことでも、アンケートから子供たちの様子に着目している点は今後も続けてほしい。 △人間の社会はいじめがつきもので、集団で一人をいじめないようお願いしたい。	○いじめを扱った道徳の授業を各学級年3回実施する。 ○いじめの未然防止に努めるのはもちろんであるが、発生したあとの対応をいじめ対策委員会を中心に迅速に行う。
4	I 健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	・積極的に体育やスポーツに親しみ健康増進や体力向上を図る	・体育授業における運動時間の確保 ・休憩時間の外遊びの奨励 ・地域のスポーツ活動活躍の表彰 ・体力調査の分析によるスポーツ週間等の充実	・スポーツ週間(わくわくスポーツ週間)の実施 年3回(1回あたり5日間) ・体力調査の実施	・体力向上の意欲 ・春のわくわくスポーツ週間 ・スポーツテスト(体力向上) …ポイントアップ ・わくわくスポーツの満足度(児童アンケート)	3	3	2.8	△適切な運動に心掛けることにより、健全な体力維持に貢献できる。団体スポーツでは、協力制やコミュニケーションの確立、個人スポーツでは、自身の成長と体力の維持に貢献できる。△放課後の校庭開放はどのようにしているのでしょうか。	○年3回のわくわく週間を堅持して運動量を確保する。 ○体育のときの運動量をしっかり確保していく。(目安:28分以上は身体を動かす時間にする。)
5	II 学力向上	確かな学力の育成	各種学力調査の活用	・学力調査の結果分析等により、課題を明確にして立てた授業改善プランを実践し基礎学力の向上に努める	・学力調査の結果を分析し、実効性のある授業改善プランを実践する ・思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の工夫・展開 ・学習規律の定着	・授業観察・指導 年3回以上 ・「三小のきまり」の指導と徹底 ・外部研究会への参加全員1回以上	・学力テスト(国・都・市)の本校平均得点が国・都・市の平均以上 ・授業が楽しい・分かる(児童アンケート) ・基礎学力の定着(保護者アンケート)	4	3	3.0	△平均以上の成績とはいっても、正規分布とはなっていません。成績上位者が成績を押し上げているにすぎません。上位者の成績をおなげ、ボトムアップを図っていく必要があるかと思う。 △低学年に比べて、高学年の満足度(%)はどうしても低くなる傾向にあるように思う。年齢が上がるとつれて、それだけ深く考えるようになってきている結果だと思う。	○東久留米スタンダード(学習指導編)を活用して授業改善を行い、児童一人一人の分かる、できるを大切に授業を日々展開する。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	・習熟の程度に応じた学習集団の編成と指導の工夫	・学習内容の習熟の程度に応じた指導方法や指導体制を工夫する ・三小寺子屋の実施 ・家庭学習の習慣化を図る	・ベーシックドリル活用 全学級 ・三小寺子屋 各学年年間10回 ・週1回のタブレット端末の使用	・三小寺子屋への積極的な参加 ・参加児童の満足度(児童アンケート) ・かけ算九九検定 ・家庭学習の定着(保護者アンケート)	4	2	2.8	△寺子屋の回数を増やすべきではないか。 △九九については検定といった厳しいことは行わずに、「ドラえもん九九の歌」を使って楽しく覚えさせる方がよいと思う。 △三小寺子屋では、かつて、九九ができたなら、忍者の巻物風合格証を手渡していたが、今はそれを踏襲していません。	○東久留米スタンダード(家庭学習編)を活用して家庭学習の習慣化を図る。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	・各教科等の指導でICT機器を活用し、分かりやすい授業や児童の学び合いの授業を展開する。 ・デジタル教科書の活用	・情報リテラシーの徹底 ・タブレット型端末の授業での活用の工夫 ・校内研究の充実と深化	・タブレット型端末を活用し、対話的な学びを進める ・デジタル教科書(算数)の活用 ・各教科等の指導で実物投影機・タブレット型端末などのICT機器を活用し、分かりやすい授業や児童の学び合いの授業を展開する	・2週に1回のTTT(タブレットタイム)の活用 ・情報リテラシーの徹底 ・「書く」活動を重点にして、自己表現する機会を増やしていく。	4	3	3.0	△よく考える力の充足、自主的な学習、能力の定着	○授業中における一人1台端末の有効活用について研鑽を積み、必然性がある中での使用に限定していく。
8	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	・特別支援全体会の充実と校内委員会の充実 ・SCやSSW、巡回心理士等との適切な連携を図る	・特別支援理解の講演会実施 ・各学年との交流授業・交流給食の実施 ・特別支援学級・特別支援学校副籍児童との交流 ・SC、SSWの多面的な活用を図る	・特別支援全体会 年4回 ・特別支援理解教育 4年生と必要に応じて ・交流学習 全学年	・利用する児童全員が特別支援学級での学習の目的を理解し、個別支援シートで目指す目標を達成する。 ・交流学習…給食、授業参加	3	3	3.0	△授業だけではなく、運動会でも交流が図れていた。	○特別支援教室の巡回指導教員及びSCに教室を回らせ、気付いたことをフィードバックさせる。そのことを日々の学年・学級経営及び確かな児童理解に活かしていく。
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	児童・生徒の主体的な取組	・「深い学び」の実現に向けて、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるようにする ・学校生活のあらゆる場面で豊かに話す活動を設定し、主体的なコミュニケーション力の育成を図っていく	・ねらいや目標を達成することを意識した単元計画や教材研究を推進する。 ・個別に対話したり、自分の考えを綴ったりするなど、全員が自分らしく表現できる活動を設定する	・「めあて・課題・まとめ・ふり返し」を毎時間位置付ける授業を実践する。	・授業の最後に学びを振り返る。 ・子供同士、教職員、地域の人等、たくさんの人と会話を(児童アンケート)	3	2	3.0	△先生方が目を配って、全員が発言できる場を作っていた。	○東久留米スタンダード(学習指導編)を活用して友達の見聞や発表を聞いて自分の考えが高まっていくような、主体的で対話的な深い学びを実現させていく。
10	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	・地域の方、保護者など、専門的な人材を授業で活用する。 ・地域を愛するとともに、人のかかわりを大切にする児童の育成に努める。	・各教科や総合的な学習の時間等で、地域と連携した活動を充実させる。 ・地域の教材化を図り、問題解決的な学習を展開する。	・各学年外部からの人材を、年間2回以上招聘する。	・地域の良さを知る。調べ、まとめる。 ・他学年への成果発表会 ・体験活動の振り返りによる満足度(児童アンケート)	4	3	3.2	△専門的な人材がいれば、もっと活用してほしい。	○川の会の方とは、今後も連携を図っていきたい。 ○お米の学校の講師とも連携を図っていく。 ○柳久保小麦の方とも連携を図っていく。